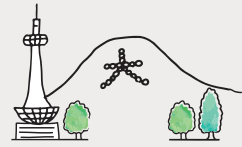


私と京都

Kyoto and Me



大谷大学 社会学部 コミュニティデザイン学科 教授
志藤 修史



京都で暮らし始めて半世紀弱になる。昔から京都に住んでおられる方からは、いわゆる「入り他人（いりびと）」といわれるが、人生のほとんどを過ごしているまちであり、私を成長させてくれたまちであるので故郷のように想っている。

私はこれまでに京都というまちの存在を強く意識させられた時期が二度あった。一つは学生時代。当時、東山七条に下宿していたが、入っていたサークルの拠点が千本今出川にあり、ほぼ毎日自転車で路地を通して往復していた。途中で目にする景色や音は、規則的な織り機の音、修学旅行生で込み合う緑色の市バスや路面電車。都会のはずなのに夜になると極端に車輦数が減り、まちが静まり返るのも不思議だった。「区民運動会があるさかいに出はたらどうや。」と言われ、ムカデ競争やパン食い競争に出て多くの日用品を景品にもらった。まちの皆さんは大人でもない、子どもでもない、「学生さん」という存在としての私を温かく受け入れてくれていた。まちという存在を肌で感じ、好きになった。

次の時期は社会人となって地域の福祉活動に関わるようになってからである。町の「役」を担った個性豊かな方々との出会いがあった。自分たちの町（学区）のことになると兎にも角にも一所懸命。みんなそれぞれ「お互いさん」と言いつつも、他の学区より一歩でもいいことに取り組んでいきたいという強い意欲が感じられた。まちの「人の集まり」（学区組織）への愛着は執着を超え、執念とも言っているのではないかと思えた。この目に見えない住民同士のネットワークは、美しくはき揃えられたまちかど、乱雑さを排除し、見た目もスッキリとしたまちなみを作り出す基礎でもあった。まちという存在の実装を実感させられた。

このようにして形成され私の内に内在化した「京都」のまちであるが、少し前から「まち」の有りがたさが揺らぎ始めている。それはマウスのワンクリックで、あるいは、スマホの画面をポチッとすることで物が届けられるようになった頃から感じるようになってきた。

景色で言えば、道端に無造作に干して

ある豆腐屋の「厚揚げ」。家と家の隙間にある路地の入り口に並ぶ表札。まちの名前が書かれたまちかどの仁丹の看板。革製の椅子が並ぶ「純喫茶」。個性の強いまちを愛する大人たち。普通であったものが今は特別で希少なものになりつつある。このようなまちの景色だけではない、ポチッでは決して届かないものが失われつつあると感じる。それはこのまちを作り出してきた実装そのものではないだろうか。

これまでも時代時代に合わせてまちも人も変わってきたのが「京都」というまちだとは思う。しかし、どこにでもあるまちではない「京都」という特別なまちであり続けてほしい。そう願ってやまない。



イラストはイメージです

京まち工房

ニュースレター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

vol.115
2026.June

近年、日本各地で地震などの自然災害が相次ぎ、私たちの生活は危険と隣り合わせだということを思い知らされます。本号では「防災まちづくり」について取り上げ、地域全体で防災意識を高め、備えをする大切さをお伝えします。日頃の備えが出番を迎えることのない、平穏な日々が続くことを願っております。



Topics 室町・防災まちづくり イベント開催報告

（室町学区・さくら広場 現地ワークショップの様子）

ニュースレター 京まち工房115

公益財団法人 京都市景観まちづくりセンター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ヒト・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp HP: https://kyoto-machisen.jp



京都市景観・まちづくりセンター



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

令和8年度賛助会員募集中！ 入会をご希望の方はまちセンにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

賛助団体の皆様			
	アルバック 株式会社 地域計画建築研究所	JR ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
	平安建材 株式会社	KYOTO BREWING CO.	京町家居住支援者会議
	株式会社 都ハウジング	一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	MACHISE 町家・中古住宅 八清 (はちせ)
コミュニティバンク京信	中蔵	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency
ARCHI homelife	京都駅ビル		



＜上京区室町学区＞

顔が見え、つながりで守る災害に強いまち・室町 ～歴史あるまちで育む「顔が見える防災」～

室町学区ってどんなところ？

室町学区は、烏丸今出川の北に位置する、歴史と文化が息づく地域です。室町時代には政治・文化の中心地として栄え、相国寺や御霊神社などの寺社、冷泉家や千家など伝統文化を継承する旧家、同志社大学など、多くの歴史的資産や文化施設が集まっています。また、小川通を中心に、茶道家の門構えや寺社、京町家が連なる地域固有の景観が残り、歴史的景観保全修景地区に指定されています。一方で、学区内には幅員4メートル未満の道や建築年代の古い木造住宅が点在していることから、京都市の密集市街地対策が必要な地域として指定されています。

こうした背景を踏まえ、令和5年度から3年間にわたり「防災まちづくりビジョン」の策定に取り組んできました。

子どもと防災

室町学区では、自主防災会・小学校・PTAが連携し、「こども防災スクール」などの取組を通じて、地域の将来を担う子どもへの防災教育に力を入れています。そこで、防災まちあるきなど、防災まちづくりの基本的な取組に加え、子ども向けの取組を充実させ、子どものアイデアをビジョンに積極的に取り入れることにも取り組みました。

こども防災スクールでは、子どもが防災への関心を高められるよう、「防災クイズ」や「防災ビンゴ」等のプログラムを新たに企画し、楽しみながら学べる試みを実践しました。

また、子どもや子育て世代など、多くの住民が参加する「室町ふれあい広場」では、子どもが災害への備えや防災に対するアイデアを盛り込んだ読み札を考える「防災かるた」づくりに挑戦し、今後は、このかるたを活用する取組も検討しています。

町内会の防災力を高める

各町から自主防災委員、町内会員が参加する「総合防災訓練」では、「町内で防災グッズの配布」や「町内役員のLINEで情報交換」「年2回の集会」など町内ごとに取組を紹介し合い、他の町内の活動も参考に取組の共有や、ビジョンに取り入れるアイデアに役立てました。

さらに、3町内の地域の集会所である「さくら広場」を防災拠点として活用するため、普段から地域の住民が集い、管理しやすい空間となるよう整備を進めることにもつながりました。



防災まちあるき



ふれあい広場



防災クイズ



防災ビンゴ

これからに向けて

こうした取組を経て、令和8年3月、『室町学区 防災まちづくりビジョン』を策定しました。ビジョンでは、「住民同士が顔見知りで助け合うまち」「こどもや高齢者を見守るまち」といった地域の将来像を掲げ、ハードとソフトの両輪で将来像を実現するための9つの目標を設定しています。具体的な取組は、個人や町内会など、それぞれの役割に応じたチェックリストとして確認できるよう工夫されています。これまでの取組は、自主防災会がクラウド上に管理し、ビジョン冊子に記載された二次元コードからいつでも確認することができます。

歴史あるまちの魅力を守りつつ災害に強い室町学区をめざし、子どもから高齢者まで住民が集う機会を活かしながら、今後も防災力の向上に取り組んでいきます。



※室町学区自主防災会では、隣接する出雲路学区(北区)の一部(松ノ下町、立テ本町)も活動範囲としています。

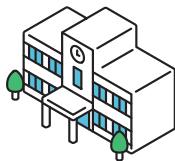


(室町学区)

(出雲路学区)

景観・まちづくり大学 <冬季> 開催報告

景観・まちづくり大学では、京町家やまちづくりをトピックに講座を開催しています。



京町家再生セミナー

2/5開催

京町家カルテ委員長が見た住まいの形 -洛北の民家徹底解説-

講師：大場 修氏 (立命館大学衣笠総合研究機構 教授、京町家カルテ委員長)

洛北地域の「北山型民家」について、発展過程や特徴などを多数の写真や図面を交えて解説されました。洛北地域では、付属屋こそが民家や集落景観を特徴づけるものであると教えていただきました。



京町家再生セミナー

3/7開催

京町家暮らしの風景 -祖母と過ごした昭和の日々-

講師：栗山 裕子氏 (京町家相談員(建築士)、WIN建築設計事務所主宰)

栗山さんが幼い頃におばあさまとともに過ごされた、戦前の面影が残る1950年代の京町家での日常についてお話を伺いました。その後、会場となった京町家を見学し、最後に栗山さんをお茶とお菓子をいただきました。



「町家の日」に開催

京のまちづくり史連続講座

2/14開催

京都の近代産業遺産 -ラジオ塔が形づくる児童公園のランドスケープ-

講師：岡田 昌彰氏 (近畿大学 教授)

昭和初期に整備された、知られざる京都の近代景観である個性豊かな児童公園を、豊富な写真や資料を交えて解説していただきました。近代ランドスケープ遺産として極めて高い文化的価値を、ラジオ塔や水飲み場のデザイン、そしてその配置などから紐解きました。

左京区・萩児童公園のラジオ塔



京のまちづくり史連続講座

3/19開催

道と橋の景観デザイン -歴史的風景の重ね合わせ-

講師：川崎 雅史氏 (京都大学 教授)

都市に必要な不可欠なインフラである道や橋。リニューアル時に用いられた、京都の奥行き深い自然、また都市の文化や歴史を基にしたデザイン手法について、鴨(賀茂)川に架かる橋々など、先生ご自身が関わられてきた事例を交えながらわかりやすく講義いただきました。

賀茂大橋



京町家等継承ネット「京町家・空き家なんでも相談会」 3月14日開催

同時開催 展示会『京町家の守り神 鍾馗さん』 3月14日・15日開催

京町家の所有者・居住者の皆様を対象に、京町家の保全・継承に向けたご相談を、専門家がお受けする相談会を開催しました。今年は、相談会会場と同じフロアにて、京町家を守る鍾馗さんの展示会を同時開催しました。

主催：京町家等継承ネット、京都市景観・まちづくりセンター
会場：[相談会] 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
[展示会] 同 洛中洛外図屏風複製パネル前スペース

展示会協力：京都鍾馗屋株式会社、光本瓦店有限会社

相談会に寄せられた相談件数

個別相談(予約制)：14件
不動産・建築・法律相談(予約不要)：6件



相談会の様子



展示会「京町家の守り神 鍾馗さん」の様子